

私の猫のペットのプリンセスがいなくなりました。
二日前に彼女は私たちの道を渡っているのが見かけられました、
そして私たちの隣人の庭に入っていました。
去年の夏、私たちが休暇のときにプリンセスは私たちの隣人に世話をしてもらいました。
おそらく彼女はそこへ食べ物をもらいに行ったのです。
私たちの隣人のドアのところで彼女が泣いているのが聞かれています、しかしその後誰も彼女を見ていません。
もし、彼女を見かけたら、どうか私に電話をください。415-567-
それではケビン、あなたはロンドンでなにをしていたんだい。
私はロンドン塔に行きました。
私は女王の王冠をそこで見られると聞きました、それで私はそれを見に行きました。
それは美しかったですか。もちろん。
それはちょうどきれいにされていました。
きれいにされた？それは汚れているのですか。
ええと、それは女王によって50年以上使われてきました…..
サッカーの試合に行って、あなたのチームがロボットと対戦するような未来を想像してください。
いつかそれが可能になるかもしれません。
毎年世界中から集まった科学者が「ロボカップ」というトーナメントを競います。
そのトーナメントはただロボットのための競技です。
ロボットのサッカーはロボカップでの最も人気のある催しのひとつ
競技は科学者が高度なロボット技術を開発する実験や訓練をするためのひとつの方法です。
人類はほとんど1000年間もロボットの開発に興味を持ってきました
ロボットを作るという考えは歴史上多くの科学者の目標でした。
初めての作業をするロボットは1200年ごろにトルコに住んでいた
発明家のアル・ジャザリによって造られました。
彼はあなたの手を洗うことができるロボットを発明しました。
それは現代の水洗トイレと同じ単純な技術を使っていました。
より最近では、明治時代の日本で、技術者の田中久重がお茶を
運んだり、矢を射りさえするおもちゃを作りました。
「ロボット」という言葉は1920年に始めて使われました。
チェコの作家、キャレル・チャペックが人間に似た機械についての
劇を書きました。
その劇の中でこれらの機械を「robota」と呼びました。
「robota」という言葉はチェコでは「work」という意味です。
ロボットのような腕が作業に使われるようになった1960年代に産
業界がロボットに興味を持ちました、
工場ではロボットによって繰り返し作業が容易に行われます。

ソニーで働いていたキタノ・ヒロアキはロボット工学にはより創造性が必要と考えました。

1997年キタノはロボットのためのロボカップトーナメントを始めまロボカップは「ロボットサッカーワールドカップ」の意味です。競技の目的は:21世紀の中ごろまでに人間の世界チャンピオンのサッカーチームにサッカーの試合で勝つことができるロボットのサッカー選手のチームを開発することです。

競技は新しい世代の研究者や技術者を造り出す手助けになりました、そして彼らに彼ら自身の技術を発展させる機会を与えま競技には「ロボカップサッカー」と並び、「ロボカップレスキュー」や「ロボカップジュニア」などの多くの段階があります。

トーナメントのもっとも人気のある部門はサッカーの試合です。ロボットの実験するためにサッカーは不思議なゲームに感じられるかもしれません。

しかし科学者たちは、サッカーに必要な能力、バランス、スピード、そして反応、などは他の実用的な用途のための効率的なロボットを作成するために完璧だと言います。

サッカーロボットの主要な三つのクラスがあります:小型、中型そして人間型です。

小型と中型のロボットは通常だたグラウンドを転がり、丸いプラスチックのおもちゃのように見えます。

しかしながら、それらはサッカーが上手です。

彼らは科学者にコントロールされているのではありません、それ自体で動いています。

ロボットの上の小さいカメラがボールを追います。

ロボットはボールを見て、蹴りそしてそれらの考えに応じて反応し人間型のロボットは人々のように見えます、足や腕そして頭があります、しかしそれらは訳50センチの高さしかありません。

それらは小型や中型のロボットよりもとてもゆっくりと動きます。

ゴールを得点することはまれです。

実際、人間型ロボットが試合中にもっとも共通してすることは倒れることです。

しかしながら、それらはそれらの手を使って立ち上がる時本当の人々のように見えます。

ロボットを自然な風に立ち上がらせるには複雑な技術が必要で世界中の約35カ国から最高の科学者がロボカップで競うために送られてきます。

2009年の7月にロボカップはオーストリアで開かれました。

ドイツからのチームがロボカップの決勝を日本から来たチームに2対1で勝利しました。

ドイツのチームのゴールキーパーがボールを取るために地面に跳びだして試合を救いました。

科学者がサッカー場で人間と競技するような生き物サイズのロボットを作り出すことができるまでには長い時間がかかるで
しかし今作られたロボットは未来のための原型です。

若い研究者たちはバランスとスピードの問題をどのように解決するかを学んでいます。

試合に関してコメントするアナウンサーロボットもいます。

ロボカップのようは競技は私たちを未来へ導きます。

ロボカップトーナメントでは目標はサッカーの技術を持つロボットを作るだけでなく、人命を守る手助けができる技術を作りだすこと
たとえば、火事のように危険な状況の中で人々を救助するためにロボットを使うことができます。

さらに、腕や脚を失った人々はロボットの代替物を使うことができるかも知れません。

ロボカップサッカーの試合で開発された技術はきっとこれらの代替物の発明に応用されるでしょう。

未来は多くの可能性を持っているのです。

この夏の旅行についてなにか提案のある人はいますか。

私たちは今年は山に行くべきだと思います。

そこにすばらしいキャンプ場があるのを私は知っています。

悪いけど賛成しません。

今年は海に行きませんか。私はとてもいい場所を知っています。

食事は出ませんが、私たちは自分たちで料理ができます。

もし海に行けば私たちは友達と料理ができます。

しかし山は涼しくて山登りもできます。

海では私たちは泳ぎにいけます。

海のほうがいい考えとおもいませんか、ジュリア。

ええ、私はリサに賛成。

私たちは泳げてそれから海岸でピクニックができます。